

【磯子区】令和4年第3回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和4年8月31日(水)10時00分～11時25分
場 所	磯子区役所7階 701、702会議室
出席者	<p>【座 長】 山本 尚志 議員</p> <p>【議 員：3名】 加藤 広人 議員、関 勝則 議員、 二井 久美代 議員</p> <p>【磯子区：27名】 関森 雅之 区長、栗原 浩一 副区長、 野崎 直彦 福祉保健センター長、 瀧澤 朋之 福祉保健センター担当部長、 大内 義則 磯子土木事務所長 川村 滋 磯子消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>議題1 令和3年度磯子区個性ある区づくり推進費の決算について</p> <p>議題2 令和4年度磯子区個性ある区づくり推進費の執行状況について</p> <p>議題3 令和5年度磯子区予算編成の考え方(案)について</p>
発 言 の 要 旨	<p>議題1 令和3年度磯子区個性ある区づくり推進費の決算について</p> <p>加藤議員：「親子の笑顔サポート事業」について、様々な講座がありますが、参加者は何名か教えてください。</p> <p>許田こども家庭支援課長：「怒らない子育て方法紹介講座」は、定員100名のところ、参加者50名程度でした。その後の保護者向け講座は、2コース実施予定のところコロナの影響で1コース中止となり、実施した講座も残念ながら参加者が少なく数名程度でした。支援者向けの講座については、12名程度という状況です。</p> <p>加藤議員：この先が本題で、講座の実施方法について、リモート等での配信は検討されましたか？</p>

許田こども家庭支援課長：昨年はコロナの影響もあり、講師の方には zoom で講演していただきました。参加者は会場で見ることでもできますし、自宅から zoom で視聴することもできる等の工夫をしました。

加藤議員：コロナ禍ということと、子育ての最中でなかなか足を運ぶ事が難しい方もいらっしゃると思うので、zoom で講座を行っていることをより一層広報して、参加者の裾野を広げて頂きたい。zoom の参加者は何名程度でしたか。

許田こども家庭支援課長：「怒らない子育て方法紹介講座」を、今年の6月に実施したところ、100名の募集に対して52名全員 zoom で参加いただきました。その後の保護者向けの講座も zoom で行い、講座募集人数8名のところ5名の方に zoom でご参加いただきました。

加藤議員：Zoom ですから、参加者の限定はしなくてもいいですよ。

許田こども家庭支援課長：スキルを身に付けるという講座の性質上、本来は座学だけでなく、ワークショップや、ロールプレイ等を交えて行いますので、基本的には人数を絞って事前申し込みという形式で実施しています。

加藤議員：zoom での参加であれば、参加者をもっと増やすこともできたわけですね。

許田こども家庭支援課長：はい、そのとおりです。

加藤議員：その様な取組は非常に大事だと思うので、これからはより一層広がっていくように工夫していただきたい。

許田こども家庭支援課長：承知しました。

二井議員：「トイレパックの備蓄啓発」について教えていただきたい。昨年は78団体、今年は41団体に配布されて、大変好評だったと伺っています。そこで、横浜市内、特に区内のマンホールトイレ等の災害用トイレの市内・区内の小中学校の整備状況について教えていただきたい。

角田総務課長：ご質問の確認ですが、マンホールトイレ等の地域防災拠点等での整備状況というご質問でよろしかったでしょうか。

二井議員：はい。

角田総務課長：磯子区内の地域防災拠点ではトイレの整備は終わっています。下水道直結型のトイレ等についても、令和3年度までにすべて配備を完了しています。トイレパックについては、各拠点で5,000個ずつ備蓄を配備しています。ご自宅の自助の取組について、食料と水等の備蓄は皆さんご存知ですが、トイレの方はまだご存知でない方もいらっしゃるので、実際に「こんな防災用品がありますよ」という紹介を兼ねて、昨年度はそちらの政策に力をいれて取り組みました。

二井議員：ありがとうございます。

議題2 令和4年度磯子区個性ある区づくり推進費の執行状況について

関議員：8月26日から始まったレシ活についてお伺いします。実はレシ活への登録は大変で、商店街を歩くと、自分の店の店名や住所、連絡先が入っているレシートを出す個店の少なさに驚きました。私がよく買っている花屋も金額しか印字されていないのでレシ活には使えません。経済局で話を聞いたところ、コロナ対策の一環でレジスターの買い替えに補助金を出しているとのこと。このあと本庁で詳細を聞きますが、コロナ対策基金を満額使い切ったと聞きました。そこで、磯子区内の商店・個店で何件程度、この補助金でレジスターを買い替えているの

か、わかりましたら教えていただきたい。

大蔭地域振興課長：経済局からその数値が届いておりませんので、今この時点ではわかりません。申し訳ございません。

関 議 員：結構です。毎月行う商店街の定例会でも、経済局の職員からレジスターの補助金等、色々と説明してくれていますよね。

大蔭地域振興課長：月一回、定例会という形で、磯子区商店街連合会に加盟されている方との打合せの場を設けており、導入のタイミングで経済局も説明に来ました。皆さん非常にレジスターの導入についても関心を持っておられました。

関 議 員：予算を使い切ったとのことなので、かなり関心が高かったのだと思います。今始まっているレシ活の方も、私が話を聞くだけでも、かなりの方が関心を持っています。この取組は事業者もさることながら、生活困窮等の大変厳しい環境にある市民の皆さん方向けの事業という側面もあるので、是非進めていきたいと思えます。

次に、「猫の適正飼育支援」についてお伺いします。以前、1階で行っていた地域猫の飼育環境については記憶に新しいかと思いますが、今日の新聞にも出ていた多頭飼育について、動物の虐待にも近いような事案が見受けられるという話がありました。区内の方からも要望が寄せられていますが、今回は地域猫から少し離れて、多頭飼育や、虐待者の飼育方法等について、ちょうど「猫の適正飼育支援」や啓発等も行っているのです、もう少し具体的に教えていただきたい。

佐藤生活衛生課長：現状、多頭飼育や飼育崩壊ではないかといったご相談は特にありません。実際に相談が入った場合、現状を見ないと飼育状況はわかりませんので、飼い主さんの話を伺いながら、飼育状況、えさの状況、水の状況、フンの状況、清掃状況、健康状況を確認させていただきながら、改善の指導等を行っている

きます。強制的に何かをすることはできないので、飼い主さんの理解を得ながら、増やす必要がなければ増えないようにするといったことや、少しずつ譲渡にしたらいかがかというようなこと、譲渡ということになれば地域のボランティア等と一緒に協力しながら対応していくようなことになるかと思います。その中で、虐待が疑われる場合、警察とも相談しながら対応する形になると思います。

関 議 員：実はこの会議の前に動物愛護センターに、市内でどの様な対応をしているのかについて、一般論をお伺いしたところ、先ほどの課長の説明と同様でした。区民の方から指摘があったのは、強制力がないという点です。現在、区内ではそういった事例がないとのことですが、例えば、多頭飼育をされていていっぱいいっぱいという状況でも、飼い主はそうは思っていないという事もあると思います。ところが、周りの方は見ていて、臭い等から多頭飼育・飼育崩壊を指摘しようと思った時、まず一義的に窓口として動くのは区役所という話を聞いて、皆さん区を訪ねて行くようです。その際の対応としては、先ほどの説明のとおり、飼育状況を確認して、アドバイスしていただけるということで良いですね。

佐藤生活衛生課長：現場には行きます。臭い等で近所の方から相談があるケースは多いので、多頭飼育で飼育崩壊までではないにしても、臭いの苦情があるので、清掃やフンの始末に気を付けていただくよう、お話をしています。

関 議 員：磯子区の案件ではありませんが、要望を寄せていただいた方は、実際に区役所に訪ねに行かれたとのことでした。行政として、できる範囲で対応していただいたものの全然改善されず、家を訪ねても扉を開けないので、中の様子が全く分からない状況でした。その後、警察当局が介入し、何とか中に入ることができましたが、ひどい飼育状況でした。もちろん飼い主に納得してもらわないと、ご自身の所有財産になるので没収はできません

ん。その後は、譲渡会等で状況の改善を目指していくことになったと伺いました。そういったことから、もう少し行政でできることがないかという意見をいただきました。私もこの様な現場のケースは承知をしていなかったのですが、改めてお伺いしましたが、これからも増えていくのではないかと危惧しているところです。地域猫では全国に磯子区の名前が轟いています。飼い主にしてみれば、家族の一員という位置づけで飼育されているのでしょから、そういったところを、より積極的に何かできればと思い、意見させていただきます。

二井議員：まず、「自治会町内会 ICT 利活用支援事業」について、今年度で終了と伺っていますが、現状の区内の応募状況を教えてください。また、今年度の事業終了後、この利活用支援事業を受けなかった自治会と受けた自治会で、デジタルデバイドがより広がってしまうことを危惧していますが、その様な状況をどうされるのかについてもお伺いしたい。

大蔭地域振興課長：まず現状について、「自治会町内会 ICT 利活用支援事業」では、ハード整備として機器の導入を行っており、これまでに 25 団体が活用しています。今年度は 10 団体の実施を予定しており、7 月末時点で 5 団体実施済です。残り 5 団体については引き続き募集中で、自治会の皆様にも再度ご案内しながら、導入を勧めていきたいと考えています。ただ、導入を進めた先にあるのが、使い方等のいわゆるソフトの話です。磯子区区民意識調査の中で、パソコンがなくてもスマホ端末を所有している区民は 85%を超えています。実際、パソコンがなくてもスマートフォン等を活用して、ズームをしているという話も聞きます。ハードではなくソフト的な講習会をやってほしいという声や、機器をどの様に活用したら良いかというご質問もいただきますので、今年の後半も再募集といった形で相談会や、出張講座等を行って参りたいと考えています。

二井議員：ぜひ進めていただきたいと思います。先ほど関先生もおっしゃっていましたが、レシ活事業や今月末までのマイナポイントの申請等で、私も多数の方からご相談いただきます。スマホの所有者は多くても、アプリの使い方がわからないということで、「わからないからやめよう」という方も、事実いらっしゃると思います。これから ICT 化が進んでいくと思いますので、是非、引き続きフォローしてください。

続いて「区民の健康づくり応援事業」の「がん検診啓発事業」についてお伺いします。去年はコロナ禍のため中止になったと伺っていますが、がん検診を多くの方に受けていただくのは大変重要なことだと考えています。そこで、今年の実施状況と、年度ごとの検診受診率の推移について教えてください。

橋本福祉保健課長：がん検診は区役所で行っています。肺がん検診は、今年の 10 月に予定していましたが、コロナ第 7 波の影響を踏まえて中止としました。磯子区のがん検診の受診率については、現在、令和 2 年のデータが最新のものとして公表されており、横浜市全体の受診率とほぼ同じ水準です。一方、子宮がんや乳がん等の女性のがん検診については、令和 2 年度の数値で、子宮がんの受診率が 22%、乳がんの受診率が 13.8%で、市内 13 位となっており、女性のがん検診の受診率は低下しています。対象者は、会社の健康診断などの受診の機会がない方で、横浜市のがん検診受診の推定者からデータを抽出しています。受診率は全体で若干下がってきており、特に令和元年から令和 2 年にかけては減少傾向です。

二井議員：数字を伺うと、受診者が少ないと感じました。がんの早期発見につながる大切な事業であり、私も頑張りますので、普及・広報・啓発に努めていただきたいと思います。

続いて「地域と一緒に作る防災・減災」について、7月の広報で風水害に関することが掲載され、8月末に、磯子区内の住宅及び事業者の全てに、ハザードマップとマイタイムラインが全戸配布されています。個人的にとっても良い内容だと思っています。

す。ハザードマップを配り終えた後も、是非、利活用をするためのフォロー等していただければと思いますが、いかがでしょうか。

角田総務課長：ハザードマップとマイタイムラインは配布が終わりました。先生がおっしゃるように、配られてそのままにするのはもったいない内容ですので、区役所としては、HP等の情報媒体を使い、活用方法について発信していきます。また、防災講座等でお声がけいただく機会もありますので、「ご自宅に配布されましたよね。」と話題に取り上げる等、積極的に広報、説明していきたいと考えています。あらゆる機会を捉えて、ぜひ活用していきたいと思っています。

二井議員：本当に良い内容だと思うので、避難グッズ等と一緒に携帯してもらえると良いと思います。続いて、国際交流ラウンジについて伺います。契約書等が出るのはこれからと伺っていますが、現在の事業者の参加状況について、事業者名は結構ですので、どの様な活動している団体が参加の意向を示しているのか、可能な範囲で教えていただきたい。

大蔭地域振興課長：現在、2団体から参加の意向が提出されています。本日、実際に提案を出していただくにあたり、現地見学会を行っているところです。2団体とも国際交流そのものではありませんが、区内で地域活動していて、実績もあります。ネットワークを活かして、青少年育成活動や、地域コミュニティの活性化などに知見をお持ちの団体です。

二井議員：区役所の近くに新設予定ということもありますが、どういった方が運営されるかによって、ラウンジの色が違ってくると思います。ラウンジの新設にあたって、区役所周辺や、住民の方々の国際交流の輪が広がるようなラウンジになれば良いなど、とても楽しみに期待しているので、引き続きよろしく願います。

加藤議員：議題1でも少し話題にした「親子の笑顔サポート事業」について、参加の状況、zoom等での実施状況を含めて教えてください。

許田こども家庭支援課長：今年度の「怒らない子育て方法紹介講座」は、zoomを使用せず、区役所にお越しいただく形で7月に実施し、定員50名のところ、35名の方に参加いただきました。

加藤議員：今はネット社会なので、知りたいことがあれば、自宅からでもzoomで参加して、質疑もその中でできるので、より一層広げていくべきだと思います。去年はzoomで開催したが、今年はやらないというのではなく、zoomも対面も両方やっていかなければならないのではないのでしょうか。対面の開催でもzoomを併用するというのを、検討すべきだと思います。

許田こども家庭支援課長：この講座の趣旨は、実際にこどもに怒らず、どうしたらうまく接することができるかということを目的にしています。最初の「怒らない子育て方法紹介講座」は、保護者と子育て支援者の両方を対象にして実施しており、基本的に座学で「どの様にうまく子どもと接するか」というお話が主です。こちらの講座については、先生のおっしゃる通り、広く、できるだけたくさんの方に聞いていただき、マニュアル等をホームページに載せるというやり方もできると考えています。その次の段階として、紹介講座を受けていただいた皆さんが、支援者向け・保護者向けに分かれて、実際のロールプレイを行いながら学んでいただく講座を開催しております。そちらも広く映像等で紹介していくということも必要だと思います。しかし、我々としては、実際に目の前でフィードバックすることを大事にしており、支援者も実感することで、その後の活動に生かしていくことができるとの思いで実施しております。一方で、先生のおっしゃる通り、たくさんの方に知っていただくことが何より大事だと思いますので、今後、デジタル媒体での配信も検討していきたいと思っています。

加藤議員：いわゆる「サポーター養成講座」の様な講座は、zoomで行う必要はないと思いますが、最初の紹介講座はたくさんの人に視聴してもらいたいと思っています。というのも、「どうしても不安になってしまって怒ってしまう。怒らないためにはどうしたらいいか。」と、もう子育てと縁がない私のところにまで相談に来る方が多くいます。特にコロナ禍で、外に出てもママ友にも少し避けられてしまう様な状況の中で、多くの方に不安があるようです。zoomはいくらでも参加者数を増やせるので、是非とも zoom で開催していただきたい。少し講座に触れて、記憶に残っているだけでも、決してマイナスにはならないと思います。また、区役所全体で、現在行っている事業紹介など、区の魅力を含めて工夫して発信してもらいたい。今の若い世代ではYouTube が非常に盛んなので、区役所の中にも「ザ・磯子区役所」の様な、いわゆる YouTuber を養成していき、より身近な区役所となるような、そういう時代になってきていると思うので、何か考えていただければと思います。

山本議員：まず、「磯子海の見える公園」についてお伺いします。「磯子海の見える公園」は、下水道施設である第二ポンプ場の上部を利用した公園で、平成7年に開園しています。開園時間は、春・秋は18時、夏は19時、冬は17時までで、夜間は施錠し、その管理は土木事務所が行っていると聞いています。先日、「海の見える公園」に行ったところ、横浜市民ヨットハーバー等が見えて眺望はとてもきれいです。ただし、雑草は伸び放題で、利用者もあまりいない状況です。土木事務所にも確認しましたが、利用する人が少ないとのこと。その様な状況ですが、磯子海の見える公園を今後どの様に活用していくのかについてお聞きしたい。

金川区政推進課長：先生のおっしゃる通り、「海の見える公園」は下水施設の上部を利用した公園のため、管理上での制約が生じます。新しい利活用を検討していく場合は、所管している磯子土木事務所はもちろん、公園の清掃活動等をしていただいている公園

愛護会もいらっしゃいますし、また、周辺住民や企業も立地しており、駐車の関係であれば、警察等とも共有していく必要があります。新しい利活用の方法を検討するためには、こういったプレイヤーのご理解をいただく必要があると思いますので、区政の課題のひとつとして、検討させていただきたいと思ます。

山本議員：実際にプレイヤーとして管理している方のご意見も大事です。また、日常的にどれくらいの方が訪れるかというデータを集めていただければと思います。平成 29 年に都市公園法が改正され、横浜であれば里山ガーデンや山下公園レストハウス等が「Park-PFI 制度」を利用しています。そこで「海の見える公園」を、区民の皆さんがもう少し親しめるような公園にさせていただきたい。また、シーサイドゾーンは貴重な観光資源ですので、その様な区民が実感できる観光資源を、有効活用していただけたらと思います。その様な意味で、Park-PFI 制度を活用することも一つの手段だと思ますので、幅広く検討していただきたい。例えば、昭和 44 年に本牧市民プールが作られて、今後、再整備される予定です。昭和 40 年に作られた根岸の横浜プールセンターは、現在営業停止中ですが、新たな活用も考えられると思ます。その様な事例を鑑みて、例えば、海の見える公園の利用を公民連携で業者を募るなどして、去年の東京オリンピックで大活躍したスケートボードパークの様なものの導入を検討してみるのはいかがでしょうか。「海の見える公園」に駐車場はありませんが、自転車に乗って来る方のために駐輪スペースを設けることはできると思ますし、外なので周りへの騒音は気にしなくていいと思ます。その様に、新たなアイデアを出して、考えていただきたい。しかし、「海の見える公園」はポンプ場の上部施設のため、環境創造局の許可をいただく必要もあります。そこで、様々な視点で観光資源を有効活用していくというスタンスで、今一度、磯子「海の見える公園」を利用、活性化させるための見直しをお願いします。続いて、「バス路線基礎データ調査事業」についてお伺いしま

す。これは貴重なデータだと思います。昨日、中期計画の素案の説明を伺いました。そこで、高齢社会を見据えて持続可能な地域の総合的移動サービスを検討し、4年間の中期計画のうちに運用を開始するというお話がありました。磯子区で、折角このようなデータを集めたので、持続可能な地域の総合的移動サービスを区内で進めるには、どういったサービスがあるのかについて、地域の連長さんも含めても良いと思うので、区役所として是非、事業を作って調整し、進めていただきたいと思います。それについて、区長の見解をお伺いしたい。

関森区長：中期計画の持続可能な地域の総合的な移動サービスについて、いくつかモデル事業で調査に入るということは聞いていますが、具体的なアプローチが区には来ていない状況です。現在、鉄道だけではなく、バス路線も活用することで、区民の皆様の円滑な移動手段を実現しています。道路局が民間事業者とタイアップして行っている横浜市広域シェアサイクル事業社会実験も、現時点で磯子区内の4か所にサイクルポートが設置されています。磯子区としては、アプローチを待つのではなく、磯子のフィールドを活用して、バスに限定せず、広い意味で将来を見据えた、持続可能な運営サービス等、区民の生活の利便性向上に私共も尽力して参りますので、必要なアプローチをしていきたいと思えます。

山本議員：中期4か年計画では、子育て支援が重点施策となりました。子育てのしやすい街を作るという意味で、子育て支援を重点的に行っていきたくと考えております。中期4か年計画の市長の説明の中で、子育てしやすいというのは、若い世代の方々だけに優しくするのではなく、ひいては高齢者の方々にも住みやすい街を作ることにもつながると聞き、私もその通りだと思います。それに関連して、平成25年3月31日に廃止になった岡村三丁目の磯子ハイム跡地活用について質問します。こちらの施設は、平成25年頃、磯子母子寮として使われていましたが、母子寮の移転に伴い、平成25年3月末に廃止が決定しました。

そのため、岡村地区の連合町内会と磯子区役所が調整をして、こども青少年局から地域のコミュニティの拠点として使わせていただいていたのですが、令和4年度からの新しい動きがあるとのことで、教えていただきたい。

金川区政推進課長：磯子ハイムの経緯は、山本先生からお話しいただいた通りでございます。岡村地区の方にご利用いただいておりますが、昨年の台風で漏水により電気系統が故障したため、十分にご利用いただけない状況が続いており、ご不便・ご迷惑をおかけしております。そういう状況もあり、施設をどうするかについては、こども青少年局の方でも検討していると連絡が来ています。検討の中で、地域の方にとってもご納得いただける検討内容になるように、我々区役所と利用している地域の方とでしっかりお話をしていきながら、今後の対応を考えていきたいと思っております。

山本議員：岡村地区は公共施設が少ない地域で、公共交通も不便な地域です。その中で、公共施設として磯子ハイム跡地を使用してきたという経緯があります。これまで通り地域のコミュニティの核として使用していきたいという思いがあるので、その様な地元の方々の声をくみ取っていただきながら、こども青少年局と一緒に、継続できるよう進めていただきたい。昔は母子寮でしたが、高齢者向けのカルチャースクール等、様々な用途に使っているようですので、是非拠点として生かしていただくよう要望します。

栗原副区長：先ほどの「海に見える公園」について、区政推進課長からも答弁しましたが、開園以来、継続的に公園愛護会の方にメンテナンスにご協力いただいております。一方で、先生のご指摘の通り認知度が低く、利用者が少ないという課題もあります。それらをどの様にすれば、最大公約数的な形で様々な方に利用していただけるのか、公園愛護会の方のご意見もいただきながら、まずは、多くの方に利用していただき、知っていただくという

ことから始めていきたいと思いますので、知恵を貸して頂ければと思います。よろしく願いいたします。

山本議員：公園愛護会の方たちのご助力には、本当に頭が下がる思いです。このように活用すればというような公園愛護会の方々のご意見を伺いながら、より使っていただけるようお願いしたいと思えます。

議題3 令和5年度磯子区予算編成の考え方（案）について

特になし

その他

加藤議員：現在の救急の状況と、逼迫した現状だからこそ、区民の皆様をお願いしたいことがあれば教えていただきたい。また、消防署職員が制服を着てコンビニで昼食等の飲食物を買った時の市民からの苦情に悩んでいるという話を聞いて、気になっていましたので、現状どのように対応しているか教えてほしい

川村消防署長：先生方には、夏場の熱中症、新型コロナウイルス関連での救急医療の増大に関して、大変ご心配おかけしました。6月27日の梅雨明けからの熱中症による救急搬送の要請の増加に加えて、感染症の蔓延により、7月18日には過去最多の救急件数1,000件を超える等、7月は救急件数高止まりの状況でした。その様な状況の中、8月上旬に搬送困難事例が多発するなど、最もピークを迎えました。地域の皆様方に通報をいただいても、搬送する医療機関がなかなか見つからない状況となり、地域の皆様も不安だったと思います。救急医療体制がないというところも一部ある中で、ご理解いただきながら搬送先を見つけて対応してきました。新聞報道でも救急医療逼迫の報道がありましたが、杉田消防出張所は50回の要請に対し、隊員2人で病院を探し続けるという時もありました。3～5時間継続して

活動にあたるため、休憩時間もままならず対応していることを市民の皆様方にもご理解いただければと思います。消防局でも、Twitter や、HP 等で、その様な状況を広報しており、感染症学会等の声明文も 8 月頭に発表された中で、薬や検査のために救急車を利用するのは控えていただきたいという内容をアナウンスしました。医療機関で、お薬のみの処方をしていただいております。遠方の医療機関を受診するにも、お迎えに来ていただいたり、公共交通機関を利用できない方もいらっしゃいますので、自宅で安静に、処方薬、医薬品等を購入いただけるようになれば改善されると思います。症状に応じて、不安だから呼ぶのではなく、救急医療相談等も活用いただきながら、救急車の利用をお願いしたいと思います。先般、神奈川新聞の一面において、医療従事者からの差別を伝える記事が出ています。当区の医療機関や病院から誹謗中傷等の扱いを受けたという話は聞いておりませんが、他区の医療機関では過去にそういったことがあったと聞いています。一方で、先日聞いた話では、医療機関側から「暑い中ご苦労でした。別室の休憩スペースを活用していただいても結構ですよ」といったお言葉をいただく等、区内の医療機関の皆様からは、かなり好意的に対応いただいていると聞いております。そうした状況の中、医療機関の方からご理解・ご協力をいただきつつ、市民の皆様方の不安の払拭に向けて、引き続き邁進して参ります。搬送困難事例は 8 月の頭をピークに下がりつつある現状ではありますが、まだ高止まりの状況です。なぜすぐ運ばないのかというご意見もたまにいただきますが、最大限の努力をしながら、いち早く、直近の医療機関に搬送しますので、引き続きご理解、ご協力をお願いします。

加藤議員：ありがとうございます。現場の方も大変な思いをして、地域の方のために対応しているので、消防の幹部が隊員の疲労を激励して、士気が高まるような、声掛けをしていってもらえたらと思います。

備 考	
-----	--